

ゆめっとフェスタ 2007 プレ企画 「ゆめっとな夜」 at 三条ラジオカフェ

ゆめっとフェスタ 2007 プレ企画として、若者主体の継続的なイベントで、地域の活性化にも貢献している活動の仕掛け人、いわゆる“まちづくりニューリーダー”から、地域参加の魅力や成功の秘訣を啓発していただくラジオ番組を京都のコミュニティ放送局である京都三条ラジオカフェ（FM79.7）にて放送し、その放送内容をQ & A形式にまとめました。また、放送内容はゆめっと京都ホームページ（<http://www.yumet.org/>）にて公開していますのでそちらもあわせてご覧ください。（聞き手：高桑鉄則ゆめっとフェスタ 2007 実行委員）

第1回放送 10月29日（月） 出演者：佐藤元紀さん（第1回～第6回西院ミュージックフェスティバル実行委員長）

- Q. 電車、車庫、銭湯などを会場として使っていますが、どういう発想だったのですか。
- A. 普通にそんなことあったら面白いじゃないですか。西大路四条を封鎖したらどうかと交通局にいったら無理って言われて。そういう発想から、電車の線路とか車庫でできるんちゃうかという話で。
- Q. すごく地域に密着したイベントだと思いますが、どのように広げて来られたのですか。
- A. 大義名文をつけてやるより、本当に楽しみを求めてイベントをやる方が、いつかは地域のためにもスタッフのためにもなると思います。



（左）佐藤元紀さん（右）高桑鉄則実行委員

第2回放送 11月1日（木） 出演者：藤田卓也さん（第5回京都学生祭典実行委員長）

- Q. 実行委員長を1年間経験して何が変わりましたか。
- A. 多くの方と出会い、話をして様々なもの見方やそれぞれの方の経験を教えていただいたことがプラスになりました。
- Q. 多くの方と出会った中で一番印象に残っていることは。
- A. 岡崎地域の自治連合会長さんがおっしゃった「リーダーはみこしに乗っているようなものだが、みこしを担いでいる人だけに感謝するのではなく、みこしを担いでいる人が履いているわらじを編んでくれた人にまでも感謝することが大事」という言葉。



（左）地原正俊ゆめっとフェスタ実行委員長
（中）藤田卓也さん（右）高桑鉄則実行委員

第3回放送 11月5日（月） 出演者：糸川慎一郎さん（大風流 2007 ボランティアスタッフ）

- Q. コンセプトって何ですか。
- A. 今年のコンセプトは、何かと何かを「かけて」、新しいモノを作りたい。毎年、ほとんどのメンバーが入れ替わって新しいメンバーでその年のイベントを作っていきます。
- Q. しんどかったなという話がありますか。
- A. 企業に協賛をお願いしたが、協力してくれる企業が見つからなくて結構大変でした。企業は11月に来年度の予算を確定するので、5月から協賛活動しても遅いようでした。



（左）糸川慎一郎さん（右）高桑鉄則実行委員

第4回放送 11月8日（木） 出演者：石郷岡理恵さん（第18回LIVE KIDS ボランティア代表）

- Q. こんな方向で行きたいな、とか、こういうことをやってみたいな、というのはありますか。
- A. 集まったスタッフが初対面の人たちばかりなので、その人たちが最後に「やってよかったな」と思ってもらえるようなイベントを一緒につくってこようよ、という、ムードメーカー的な存在でみんなを引っ張っていただけたいなと思っています。
- Q. 今年で3回目のスタッフ参加だそうです。1回目、2回目を振り返ってみてどうですか。
- A. 未知の部分がとても多いイベントになるので、毎年に関わり方は違いますが、それぞれの年ごとに、自分の持っている最高のものを出せたらいいと思っています。



（左）石郷岡理恵さん（右）高桑鉄則実行委員

第5回放送 11月12日（月） 出演者：芦田ちはるさん（まち遊びフェスティバル 2007 実行委員長） 高橋友樹さん（まち遊びフェスティバル 2006 実行委員長）

- Q. 予算のうち協賛金が大きなウエイトを占めているそうですが、どのようにして地元企業から支援していただいているのでしょうか。
- A. スタッフ一人一人が一軒一軒回って、協賛をお願いしています。そういった活動により、まちフェスをアピールすることにもなります。そして、自分達スタッフも成長できるのです。おかげで、今年は400社以上の方々から協賛をいただきました。
- Q. 舞鶴と密接につながったイベントであると思いますが、地域との関係はいかがでしょうか。
- A. 舞鶴だからこそ、これだけの地元の支援が集まるのだと思います。私たち若者の想いが伝わる規模のまち、顔の見える関係のまちであるということではないでしょうか。



（左）芦田ちはるさん（中）高橋友樹さん（右）高桑鉄則実行委員

第6回放送 11月15日（木） 出演者：杉岡秀紀さん（きゅうたなべ倶楽部学生代表）

- Q. 「大学と市」「学生と市民」など地域の連携を目指す上で、どのような活動をされているのですか。
- A. 大きく分けると3つあり、1つ目は「つなぐ」。月一回の名刺交換できるような場作り。2つ目は「起こす」。パソコン教室やリサイクルショップ、学園祭など目に見えるしかけ作り。3つ目は「政策提言」。市、財界に対して連携が当たり前になるような街づくりや大学の施策をおこなってくださいと提言する活動。
- Q. リーダーに求められるものは。
- A. 「ミッション」使命感、私はやるんだという志。「パッション」情熱、続ける力、愛、これがなければ続かない。「アクション」行動力もそうだが決断力、止める決断も時には必要。最後に「ハクション」楽しくなきゃ続かない。という4つの「ション」—「4ション」



（左）杉岡秀紀さん（右）高桑鉄則実行委員